（公社）日本給食サービス協会会長賞

『幸せを招く色・お赤飯』

埼玉県春日部市立幸松小学校　六年　男子　唐木　秀徳

ぼくは、お赤飯が大好物です。祖母や母がぼくの成長を共に、お祝い事になると炊いて祝ってくれるからです。あずき色の粒に彩られたお赤飯は、とても鮮やかで見ているだけで幸せな気持ちにしてくれます。

去年の夏休み、ぼくは祖父母宅で一週間過ごしました。畑に朝夕と水をくれたり、野菜や果物を収穫する作業を行いました。お赤飯の中に入っているササゲが、暑い夏の季節に収穫される食材なのだと分かりました。ササゲの粒をさやの中から取り出し、ザルの中に入れます。天日に何日も干して、その干したササゲを一升びんに入れて保存します。祖父が一生けん命畑で作ったササゲを使い、祖母が心をこめてお赤飯を作って頂けることに、ぼくは感謝しなければいけないと思いました。

けれども思いが込められたお赤飯を、ぼくの家や小学校の給食で、めったに味わうことができません。なぜなら「お祝い事」の時にしか出されない特別な食べものだからです。ぼくはその微妙なタイミングを、いつも心待ちにしていました。ようやく今年の四月の給食の献立表にお赤飯がのってきました。

「わあー、今日はお赤飯が食べられるんだ。」

「おいしそう！早く食べたいね。」

配ぜん係が給食の準備をしているうちから、クラスのみんながさわぎ出しています。

「一年生の入学と、二年生から六年生の進級を祝う献立として、給食の調理員さん達が作ってくれました。クラスの全員で、六年生への進級を祝いましょう！」

と担任の先生が、本日の献立について説明してくれました。ぼくは先生の言葉を聞いて、新しいクラスで入学や進級のお祝いをすることに、出されたお赤飯の本当の意味があるように思えました。ぼくは今朝、給食献立表を念入りにチェックしてきました。その献立表に、先生が話した言葉が書かれていました。

『入学、進級おめでとうございます。子どもたちの健やかな成長を願って、安全でおいしく、豊かな給食を提供していきます。』

ぼく達の成長を、家族だけではなく色々な場面で、たくさんの人が見守って支えてくれています。ぼくもそうだけれど、給食の時間は学校生活の中で、みんなの笑い声と笑顔が出る大切な時間です。そんなぼく達のために、おいしい献立を考えてくれる栄養士さんや、おいしい給食を作ってくれる調理員さん達の存在を、お赤飯の献立が教えてくれました。

「今度はいつお赤飯給食をたべられるのかな。」

とぼくの隣の席のお友達が声に出しました。

「もう一回位食べられるんじゃない。」

とぼくはそのお友達に返しました。だからこそ、給食の調理員さん達にお願いがあります。ぼく達が小学校を卒業する前に、お赤飯の献立を必ず出してください。大切な時に頂ける「お赤飯」に満足しながら、ぼくは幸せ色に包まれていました。